

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①田中 ②鈴木 (恵)	実務経験有 ①太田総合病院に看護師として勤務② 寿泉堂総合病院に看護師として勤務																
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年後期	必修																
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識という観点から、体と心のしくみについての知識を養う。発達の観点からの老化を理解し、老化に関する真理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の成長と発達の基礎的理解・老年期の定義（WHO、老人福祉法、法人保健法の老人医療制度）・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響・保健医療機関との連携。特に基礎的な人体の構造や機能の知識の習得をする。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 授業全体の内容を理解し、自立生活困難な利用に対して現場で直面する利用者のニーズに応えられるように、医療従事者と分担するためにも必要な高度な知識・技術を習得する。</p>																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 人間の成長と発達をどうとらえるか</td> <td style="width: 50%;">2 発達理論</td> </tr> <tr> <td>3 形態的成長</td> <td>4 身体的機能の発達</td> </tr> <tr> <td>5 精神運動機能の発達</td> <td>6 社会心理的発達</td> </tr> <tr> <td>7 発達段階別にみた成長と発達</td> <td>8 発達の評価</td> </tr> <tr> <td>9 社会は老年期をどうとらえてきたか</td> <td>10 高齢者施策の推移</td> </tr> <tr> <td>11 今日の老年期をめぐる問題</td> <td>12 これからの老年観</td> </tr> <tr> <td>13 ライフサイクルの中の老年期とはどのような段階か</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 今の高齢者が生きてきた時代とは</td> <td>15 老年期において遂げられる成熟について</td> </tr> </table>				1 人間の成長と発達をどうとらえるか	2 発達理論	3 形態的成長	4 身体的機能の発達	5 精神運動機能の発達	6 社会心理的発達	7 発達段階別にみた成長と発達	8 発達の評価	9 社会は老年期をどうとらえてきたか	10 高齢者施策の推移	11 今日の老年期をめぐる問題	12 これからの老年観	13 ライフサイクルの中の老年期とはどのような段階か		14 今の高齢者が生きてきた時代とは	15 老年期において遂げられる成熟について
1 人間の成長と発達をどうとらえるか	2 発達理論																		
3 形態的成長	4 身体的機能の発達																		
5 精神運動機能の発達	6 社会心理的発達																		
7 発達段階別にみた成長と発達	8 発達の評価																		
9 社会は老年期をどうとらえてきたか	10 高齢者施策の推移																		
11 今日の老年期をめぐる問題	12 これからの老年観																		
13 ライフサイクルの中の老年期とはどのような段階か																			
14 今の高齢者が生きてきた時代とは	15 老年期において遂げられる成熟について																		
<p>[使用テキスト・参考文献] 『発達と老化の理解』中央法規出版 参考『発達と老化の理解』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験(60点以上)・レポート・記録授業態度による総合評価</p>																	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田②田中 ③鈴木 (恵)	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務②太田総合病院に看護師として勤務③寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年・前後期	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得すると共に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症の基礎知識として、認知症を取り巻く状況や医学的観点からの基礎知識、認知症の人の心理状態やコミュニケーション手段、介護をする家族の心理など認知症ケアがいかに多岐にわたるかを理解する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症を取り巻く状況、認知症について理解することができる。 ・ 認知症支援の理念、原則、倫理、基礎について理解し、生活環境のあり方を考える。また、認知症の人とのコミュニケーションについて理解し、生活支援技術を身につける。 ・ 認知症の人に適した生活環境と支援体制を理解し、在宅で生活する認知症の人とその家族の支援や、グループホーム、介護老人福祉施設に入所している認知症の人の介護について考える。 ・ 脳血管性認知症の人とアルツハイマー型認知症の人の生活支援について理解する。 ・ 在宅、施設における認知症ケアの事例より、家族に対する支援や施設での連携、協働について学ぶ。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 前期 <ul style="list-style-type: none"> 1・2 認知症を取り巻く状況 3・4 認知症の知識 5 認知症の人の介護の倫理 (事例を基に演習) 6 特徴的な心理・行動と対応 7・8 認知症の人たちの介護の基本 9・10・11 認知症の人の生活支援技術 12 認知症の人たちの暮らしと支え 13 介護老人福祉施設と認知症の人の介護 14 グループホームと認知症の人の介護 15 在宅における認知症の人とその家族 後期 <ul style="list-style-type: none"> 16・17 脳血管性認知症 (中等度、在宅) の生活支援 (事例検討) 18・19 脳血管性認知症 (中等度、グループホーム) の生活支援 (事例検討) 20・21 脳血管性認知症 (介護老人福祉施設) の生活支援 (事例検討) 22・23 脳血管性認知症 (重度、在宅) の生活支援 (事例検討) 24・25 脳血管性認知症 (重度、グループホーム) の生活支援 (事例検討) 26・27 アルツハイマー型認知症 (軽度、在宅) の生活支援 (事例検討) 28・29 アルツハイマー型認知症 (老人保健施設) の生活支援 (事例検討) 30 認知症の理解と介護 総まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 『認知症の理解』中央法規出版 参考『認知症の理解と介護』メヂカルフレンド社 『認知症の理解』建帛社、『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験 (60点以上) ・レポート・記録授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田 ②鈴木（恵）	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務②寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を「生活支援技術」と関連づけて学ぶ。また障害のある人の特性をふまえたアセスメントを行い、自立に向けた支援を行うために、地球におけるサポート体制や他職種協働のあり方、家族への支援について学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害のある人の身体的、心理的特性を理解する。 障害のある人の心理や身体機能を理解し、自立支援に資するサービスを総合的に提供できる能力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 障害の概念 障害者福祉の基本理念 2 障害による心理的影響と自己概念、障害者が抱える様々なバリア 3 肢体不自由（運動機能障害）についての基礎知識 4 肢体不自由（運動機能障害）のある人の心理 5 日常生活への影響とアセスメントの視点 6 内部障害の定義と動向 7 心臓の機能障害のある人、呼吸器の機能障害のある人 8 腎臓の機能障害がある人、排泄器官の機能障害のある人 9 小腸の機能障害のある人 10 視覚障害のある人の理解 11 視覚障害のある人の心理 12 視覚障害の日常生活への影響 13 聴覚障害についての基礎知識 14 聴覚障害のある人の心理 15 聴覚障害の日常生活への影響 16 言葉に障害を認める人の理解			
[使用テキスト・参考文献] 『障害の理解』中央法規出版 参考『障害の理解』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況・試験（60点以上）・レポート・記録授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①成田 ②鈴木（恵）	実務経験有 ①老健清流苑に介護福祉士として勤務② 寿泉堂総合病院に看護師として勤務
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を「生活支援技術」と関連づけて学ぶ。また障害のある人の特性をふまえたアセスメントを行い、自立に向けた支援を行うために、地球におけるサポート体制や他職種協働のあり方、家族への支援について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害のある人の身体的、心理的特性を理解する。 障害のある人の心理や身体機能を理解し、自立支援に資するサービスを総合的に提供できる能力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 聴覚障害の日常生活への影響 2 言葉に障害を認める人の理解 3 脳の障害に起因する言葉の障害 4 発達障害のある人の理解 発達障害についての基礎知識 5 発達障害のある人が受ける心理的影響 6 知的障害を伴う発達障害のある人、知的障害を伴わない発達障害のある人 7 精神障害のある人の理解 精神障害についての基礎知識 8 日常生活への影響とアセスメントの視点 9 精神障害者の福祉 10 高次脳機能障害を認める人の理解、理解する視点 11 認知系に障害を認める人の理解 12 行為系に障害を認める人 13 難病及び全介助を要する人の理解 全介助を要する状態をもたらすもの 14 寝たきり状態の人 難病の人 障害者介護における連携と協働 15 障害者を持つ家族への支援</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『障害の理解』中央法規出版 参考『障害の理解』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況・試験（60点以上）・レポート・記録授業態度による総合評価</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ	授業の種類 講義	授業担当者 ①田中②鈴木 (恵)	実務経験有 ①太田総合病院で看護師として勤務 ②寿泉堂総合病院で看護師として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護技術の根拠となる靱帯の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護の視点から、いつもと異なる利用者の生活状態に早めに気づくことの出来る医学的知識を学び、専門職種と連携できる実践能力を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 人間の欲求とは 2 基本的欲求、社会的欲求 3 自己概念と尊厳 自己概念に影響する要因 4 自立への意欲と自己概念 (自己実現と尊厳、生きがい) 5 こころのしくみの基礎 「こころ」とはなにか 学習・記憶・思考のしくみ 6 7 " 感情のしくみ、認知のしくみ、 意欲・動機付けのしくみ 8 " 適応のしくみ 9 からだのしくみ 心身の調和 10 11 " 生命の維持と恒常性のしくみ、からだの部位の役割 12 からだの動き 骨・関節の動き 13 14 15 " 筋肉の動き 神経の動き ボディメカニクス 16 " <演習課題> 17 身じたくのしくみ なぜ、身じたくを整えるのか。 18 19 " 身じたくに関連したこころのしくみ 19 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 老化による機能低下 20 " 病気による機能低下、障害による機能低下 21 変化の気づきと対応 身じたくでの観察ポイント 22 23 " 身じたくでの医療職との連携のポイント 24 移動のしくみ 25 1 なぜ、移動をするのか 2 移動に関連したこころのしくみ 3 移動に関連したからだのしくみ 26 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 1 老化による機能低下 27 28 " 2 病気による機能低下 3 障害による機能低下 29 変化の気づきと対応 1 移動での観察のポイント 30 " 2 移動での医療職との連携のポイント</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『こころとからだのしくみ』中央法規出版 参考『こころとからだのしくみ』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験 (60点以上) ・レポート・記録授業態度による総合評価</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ	授業の種類 講義	授業担当者 ①田中②鈴木 (恵)	実務経験有 ①太田総合病院で看護師として勤務 ②寿泉堂総合病院で看護師として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 2年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。 [授業全体の内容の概要] 介護技術の根拠となる靱帯の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護の視点から、いつもと異なる利用者の生活状態に早めに気づくことの出来る医学的知識を学び、専門職種と連携できる実践能力を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 食事のしくみ 1 なぜ、食事をするのか 2 食事に関連したところのしくみ 2 食事に関連したからだのしくみ 3 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 老化による機能低下 4 " 病気による機能低下 5 " 障害による機能低下 6 変化の気づきと対応 食事での観察ポイント " 食事での医療職との連携ポイント 7 入浴・清潔保持のしくみ なぜ、入浴・清潔保持を行うのか 8 入浴・清潔保持に関連したところのしくみ 入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ 9 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 老化による機能低下 10 病気による機能低下 障害による機能低下 11 変化の気づきと対応 入浴・清潔保持での観察のポイント、医療職との連携のポイント 12 排泄のしくみ なぜ、排泄をするのか 13 排泄に関連したところのしくみ 排泄に関連したからだのしくみ 14 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 老化による機能低下 " 病気による機能低下 障害による機能低下 15 変化の気づきと対応 排泄での観察ポイント 16 睡眠のしくみ なぜ、睡眠が必要なのか 17 " 睡眠に関連したところのしくみ 18 睡眠に関連したからだのしくみ 19～21 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 老化による機能低下 病気・障害による機能低下 22～23 変化の気づきと対応 睡眠での観察ポイント 睡眠での医療職との連携ポイント 24～26 「死」を理解する 生物学的な死 法律的な死 (脳死) 臨床的な死 27 終末期から「死」までの変化と特徴 身体機能低下の特徴 28 死後の身体的変化 「死」に対するところの理解 死に対する恐怖・不安 29 30 「死」を受容する段階 家族の「死」を受容する段階 医療職との連携ポイント 呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携 " 疼痛緩和のために行われている医療の実際と介護の連携			
[使用テキスト・参考文献] 『こころとからだのしくみ』中央法規出版 参考『こころとからだのしくみ』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験 (60点以上) ・レポート・記録授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 講義	授業担当者 ①田中②鈴木（恵）	実務経験有 ①太田綜合病院で看護師として勤務②寿泉堂綜合病院で看護師として勤務
授業の回数 18	時間数(単位数) 35時間	配当学年・時期 1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 「介護」に必要な周辺知識を「人間と社会」「こころとからだのしくみ」で学び、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] チーム医療と介護職との連携・総合的な援助の方針を共通し、チームの中で役割を理解し、医師の指示のもと「診療の補助」として行うことができるよう基礎知識を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 医療的ケア実施の基礎 2 個人の尊厳と自立・医療の論理 3 保険医療制度とチーム医療 4-5 安全な療養生活・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 5 安全な療養生活・救急蘇生法 6 感染予防と清潔保持・感染予防・介護職員の感染予防 7 療養環境の清潔、消毒法・滅菌と消毒法 8 健康状態の把握・身体・精神の健康 9 健康状態を知る項目 10 急変状態について 11 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」呼吸のしくみと働き・いつもと違う呼吸状態 13 喀痰状態とは・吸引で用いる器具・器材とそのしくみ 14 清潔の保持(演習) 15 人工呼吸器と吸引 人工呼吸療法 16 非侵襲的人工呼吸療法 17 気管カニューレ内部の吸引 18 人工呼吸装着者の生活支援上の留意点 吸引の必要物品の準備および説明ができる			
[使用テキスト・参考文献] 『医療的ケア』中央法規出版 参考『医療的ケア』メジカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・試験・レポート・記録授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア		授業の種類 講義	授業担当者 ①田中②鈴木（恵）	実務経験有 ①太田総合病院で看護師として勤務②寿泉堂総合病院で看護師として勤務
授業の回数 18	時間数(単位数) 35時間	配当学年・時期 2年 前期		必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。				
[授業全体の内容の概要] 「介護」に必要な周辺知識を「人間と社会」「こころとからだのしくみ」で学び、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] チーム医療と介護職との連携・総合的な援助の方針を共通し、チームの中で役割を理解し、医師の指示のもと「診療の補助」として行うことができるよう基礎知識を身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数 1～4 経管栄養の基礎知識・実施手順 5 喀痰吸引に伴うケア 6 利用者や家族の気持ちと対応・説明同意・生じる危険 記録報告 手順と留意点 7 高齢者および障害児・者の「経管栄養」消化器系の働き 8 主な症状・経管栄養とは 9 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 10 清潔・保持注入する内容 11 経管栄養実施上の留意点 12 子どもの経管栄養について 13 利用者・家族の気持ちと対応・説明と同意・感染と予防・危険・安全確認 14 急変・事故発生時の対応と事前対策 15 報告および記録 16～18 経管栄養の実施の手順と留意点				
[使用テキスト・参考文献] 『医療的ケア』中央法規出版 参考『医療的ケア』メジカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席状況・試験・レポート・記録授業態度による総合評価	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア		授業の種類 演習		授業担当者 ①田中②鈴木（恵）		実務経験有 ①太田総合病院で看護師として勤務②寿泉堂総合病院で看護師として勤務	
授業の回数 2回		時間数(単位数) 4時間		配当学年・時期 2年 前期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「介護」に必要な周辺知識を「人間と社会」「こころとからだのしくみ」で学び、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] チーム医療と介護職との連携・総合的な援助の方針を共通し、チームの中で役割を理解し、医師の指示のもと「診療の補助」として行うことができるよう基礎知識を身につける。</p>							
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 たんの吸引 口腔内吸引5回・鼻腔内吸引5回・気管カニューレ内部5回</p> <p>2 経管栄養 胃ろうまたは腸ろう5回・経鼻5回、救急蘇生法1回およびまとめ</p>							
<p>[使用テキスト・参考文献] 『医療的ケア』中央法規出版 参考『医療的ケア』メジカルフレンド社</p>				<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 演習の評価については、「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付社援発0330第43号）別添2の2以降の規定によっておこなう。</p>			